

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 特定非営利活動法人 かながわ難民定住援助協会

1 事業の趣旨・目的 (具体的に)

① 「日本語ボランティア・学習支援ボランティア実践指導講座」

地域の小学校・中学校に通う外国人定住者とその子どもたちを対象に学校生活に必要な日本語学習支援に携わる人材の育成。

② 「日本語ボランティア実践指導講座 読み書き編」

日本語の文法力をよりつけて、読み書きを中心に指導ができる人材の育成。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
6月24日 ① 日本語・学習支援実践指導講座	当協会事務所	櫻井弘子 與座徳子 村越 俊 恒川 富子 真部 いずみ	連絡・確認事項 事業の目標 授業内容 教材についての検討	実施期間、場所、時間他 日本語の底力をつける 学校や塾の宿題にも対応する 学年別に時間を決めて教科内容に即したドリルやかんじだいすきを履修する
11月2日 ② 日本語ボランティア実践指導講座	〃	櫻井弘子 與座徳子 志田早苗 酒井達男 松田節子	連絡確認事項 テーマ 授業内容、進め方 グループ構成	実施期間、場所、時間帯、広報、 文法項目の定着を目指す 前半の時間に講師より当日のながれと実践指導について学び、後半は実践指導 実習準備と実習

【写真】(会議風景の写真を1～2枚参考に添付して下さい。)

3 養成講座の内容について

(1) 養成講座名 ①「日本語ボランティア・学習支援ボランティア実践指導講座」

○2 日本語ボランティア実践指導講座 読み書き編」

(2) 養成講座の目標 地域の日本語ボランティア教室や日本語学習支援ボランティア教室に参加している人、これから参加を考えている人たちによりよい日本語支援が可能となるような日本語ボランティア養成講座を実施して、人材を育成し、活動者の増員を図る。

(3) 受講者の総数 40人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

(出身・国籍別内訳 日本国 40 人

開催時間数(回数)2 時間 (50回)

(4) 参加対象者の要件 講座終了後に即、活動ができる、高校生以上の健康な成人

(5) 受講者の募集方法

① 地域の複数の小学校と連携して周知と申し込み受付を依頼。

② 地域の官民の広報紙などへの掲載依頼。

傘下のグループへの周知、とHPへの掲載。

インターネットを利用しての広報活動。

(6) 研修会場 ① 大和市立渋谷中学校・下和田の郷 ②大和市桜ヶ丘学習センター

(7) 使用した教材・リソース

① 学習指導要領対応 小学くもんの各学年の総復習ドリル

かけ、わり算習熟プリント、分数、図形、作図、面積体積、割合、比習熟プリント

かんじだいすき(一)～(六)、同カード、国語・算数教科書、楽しく学ぶ地図帳

② 「にほんご」接続と文末の練習Ⅰ、Ⅱ、同文法、聴解CDとスクリプト

(8) 講座内容 ①「日本語ボランティア・学習支援ボランティア実践指導講座」

日 時	講座名／学習内容	講 師	受講者数
6月24日 5:00～7:00	オリエンテーション 実践指導の概要 と学年別学習の進め 方、時間配分、注意事 項の説明	(公社)国際日本語普及協 会 地域理事 関口 明子	20名
6月30日月 5:00～7:00	具体的な授業内容 挨拶、読み聞かせ くもん総復習ドリル 算数・国語とかんじだ いすきの教え方と学 習者への接し方	〃	〃
5:30～7:00	日本語学習者参加	〃	〃
7月1日 5:00～7:00	具体的な授業内容の 教え方	〃	〃
5:30～7:00	日本語学習者参加	〃	〃
7月7日 5:00～7:00	〃	〃	〃
5:30～7:00	〃	〃	〃
7月8日 5:00～7:00	〃	〃	〃
5:30～7:00	〃	〃	〃
7月14日 5:00～7:00	〃	〃	〃
5:30～7:00	〃	〃	〃
7月15日 5:00～7:00	〃	〃	〃
5:30～7:00	〃	〃	〃
7月21日 5:00～7:00	〃	〃	〃
5:30～7:00	〃	〃	〃
7月28日 5:00～7:00	作文作成の準備 作文の書式の指導	〃	〃
5:30～7:00	日本語学習者参加	〃	〃

7月29日			
5:00～7:00	作文発表会のサポート	〃	〃
5:30～7:00	日本語学習者参加	〃	〃
11月10日	挨拶、読み聞かせ		
5:00～7:00	学校・塾の宿題への対応の仕方とくもん総復習ドリルとかんじだいすきの教え方	〃	〃
5:30～7:00	日本語学習者参加	〃	
11月11日			
5:00～7:00	〃	〃	〃
5:30～7:00	〃	〃	〃
11月17日			
5:00～7:00	〃	〃	〃
5:30～7:00	〃	〃	〃
11月18日			
5:00～7:00	〃	〃	〃
5:30～7:00	〃	〃	〃
11月24日			
5:00～7:00	〃	〃	〃
5:30～7:00	〃	〃	〃
11月25日			
5:00～7:00	〃	〃	〃
5:30～7:00	〃	〃	〃
12月1日			
5:00～7:00	〃	〃	〃
5:30～7:00	〃	〃	〃
12月2日	作文作成の準備		
5:00～7:00	作文の書式の指導	〃	〃
5:30～7:00	日本語学習者参加	〃	〃
12月8日			
5:00～7:00	〃	〃	〃
5:30～7:00	〃	〃	〃
12月9日			
5:00～7:00	作文発表会のサポート	〃	
5:30～7:00	日本語学習者参加	〃	

(9) 講座内容 ②「日本語ボランティア実践指導講座 読み書き編」

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
11月2日 10:00～12:00	日本語ボランティア活動 ボランティア活動の視点に立ち返 って考えてみよう	TIJ 東京日 本語研修所 所長 広瀬 万里子	20名
11月4日 10:00～12:00	母語」に気づくこと 「意味」を 伝えること。	〃	20名
11月9日 10:00～12:00	文法と現実の生活	〃	20名
11月11日 10:00～12:00	日本語の動詞・形容詞 「て形」を使って話してみよう	〃	20名
11月16日 10:00～12:00	〃	〃	20名
11月18日 10:00～12:00	助詞「は」「が」それぞれが伝え るものは何か。 話し手の意識が選ぶ助詞	〃	20名
11月30日 10:00～12:00	〃	〃	20名
12月7日 10:00～12:00	わたしたちは、いつ、どんな形で 動詞を使っているか。 文末の形と、接続の仕方	〃	20名
1月11日 10:00～12:00	〃	〃	20名
1月13日 10:00～12:00	〃	〃	20名
1月18日 10:00～12:00	～んです」を使って話してみよう 「～のだ」が伝えるものは？ ・ 接続の仕方	〃	20名
1月20日 10:00～12:00	〃	〃	20名
1月25日 10:00～12:00	～と思います」を使って話してみ よう。 どんなとき使っているだろう？	〃	20名
1月27日	1課－普通体－現在形	〃	20名

10:00～12:00			
2月3日 10:00～12:00	1課 普通体の活用の練習	〃	20名
2月10日 10:00～12:00	1課を使った実習準備	〃	20名
2月15日 10:00～12:00	1課実習	〃	20名
2月17日 10:00～12:00	「～がほしい、～たい、～てみたい、～てほしい」 が伝えるものは何か。いつ使うか。	〃	20名
2月22日 10:00～12:00	〃	〃	20名
2月24日 10:00～12:00	文を名詞化する「の」を使って話してみよう	〃	20名
3月1日 10:00～12:00	「～たら」を使って話してみよう	〃	20名
3月3日 10:00～12:00	可能形のいろいろな使い方 —どんなとき使っているだろう？	〃	20名
3月8日 10:00～12:00	〃	〃	20名
3月10日 10:00～12:00	〃	〃	20名
3月15日 10:00～12:00	2課—普通体—過去形	〃	20名
3月17日 10:00～12:00	2課 実習の準備	〃	20名
3月22日 10:00～12:00 11:00～12:00	2課 実習 日本語学習者参加	〃	20名
3月24日 10:00～12:00	8課—て形のいろいろ	〃	20名
3月29日 10:00～12:00	8課を使った実習準備	〃	20名
3月30日 10:00～12:00 11:00～12:00	8課実習 日本語学習者参加	〃	20名

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

実施せず。

② 実施主体からの研修内容結果評価

① 「日本語ボランティア・学習支援ボランティア実践指導講座」

参加した学習者が多かったのと、日本語のレベル差もあり、慣れない受講生は対応に苦慮する一方、近くで、講師の指導が得られるという、実践指導講座ならではの利点もあった。

思った以上に日本語に困難を来している児童生徒が多い半面学習支援ボランティア数が不足しているので、今後もこのような実践指導講座を開催して、ボランティアを育てて、外国籍に繋がる子どもたちの学校生活を充実させるためのサポートをしていきたい。

② 「日本語ボランティア実践指導講座 読み書き編」

日本語の読み書きを教えるにはボランティア側の日本語の文法力がより、問われることになる。そこで、文法と現実の生活について、どんなときにどんな文型を使って話しているのか、接続詞の伝えるものなどを考え、分析したりして実践指導をしたことは今までの養成講座とは違う成果につながった。

受講生の定着率もよく地震による計画停電にもめげずに皆、熱心に勉強していた。活動へもスムーズに参加できると思われるので、傘下の日本語教室の人材不足も少しは解消されると期待している。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

地域の外国人定住者は定住の長短に関わらず、日本語の読み書きの定着に困難を来している、それを解消するためには一定期間集中して、日本語を総合的に学ぶことが必定であると同時に効果的と考える、そこで、日本語の集中講座の開催を積極的に展開していく計画である。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携 地域行政や国際化協会などと広報活動で連携して成果があった。

又、主に傘下の日本語ボランティア教室の人材不足を多少解消して、活動の活性化に寄与できた。

② 研修後の人材活用

主に傘下の日本語ボランティア教室の日本語ボランティアとして活動に従事する。

(12) 今後の課題

予算の増額の理由： 文化庁の支援は大変ありがたいことだが、企画書どおりの経費予定額は受けられないために、事業を実施する際に文化庁の経費予定額との差額の負担が大きい。 人材難資金難が付き纏う我々のような団体では事業費の確保に奔走すればするほど、肝心の活動の推進が思うように捗らないという結果を招き、本末転倒となる。 以上のような状況を改善することが課題である。

拠点の確保： 地域ではいろいろな分野の団体が公共機関を利用している、その団体数に比例して、公共機関が運営する拠点が少なく、確保が年々困難となっていること、又、利用料金も負担となっている。 日本語養成講座や実践指導講座などは一定期間続けて場所・時間の確保が必要となるが拠点側の理解はなかなか得られない状況である。

人材の発掘： ボランティアは家庭、仕事、介護、趣味、などの日常生活に支障のない範囲での活動協力となる為、継続的な活動が出来る人は限られていることを前提とした上で、精神的、肉体的、準備(日本語や学習補講の場合)や時間帯などの負担をクリアしてより良い支援活動ができる人となると人材の発掘は相当、困難となる。I

日本語・学習支援ボランティア実践指導講座

「日本語ボランティア・学習室ボランティア実践指導講座」を下記の日程にて開催いたします。初めての方、既習の方もお問い合わせの上、ご参加ください。参加ご希望の方はメール・電話またはファックスでお申し込みください。先着順で締め切らせて頂きます。

記

日程：2010年6月24日から12月9日まで20回

水曜日と木曜日 午後5：00～7：00

場所：大和市立渋谷中学校開放窓口下和田の郷

内容：外国籍に繋がる児童生徒への日本語・学習支援を実践指導で学びます。

講師：関口明子先生（公社）国際日本語普及協会 地域理事

対象：高校生以上で講座終了後、ボランティア活動が出来る方

費用：実費程度

定員：20名（先着順）

主催：特定非営利活動法人 かながわ難民定住援助協会

共催：文化庁

申込：特定非営利活動法人かながわ難民定住援助協会

連絡先：TEL・FAX 046-268-2655、2451

Eメール：nanmin@enjokyokai.org

地 図：小田急江ノ島線高座渋谷駅徒歩15分

